

## Ⅱ 小・中学校が連携した特色ある取組

学力向上総合対策事業は、小学校と中学校又は中学校同士が連携し、教科指導と生徒指導の一体的な対策を行うことにより、児童生徒の学力の向上を図ることを目的としたものであり、今年度から展開している。

タイプⅠ：小中連携地域 < 25地域86校（中学校25校）（小学校61校） >

タイプⅡ：中中連携地域 < 7地域15校（中学校15校） >

ここでは、これまでの特色ある取組を紹介する。

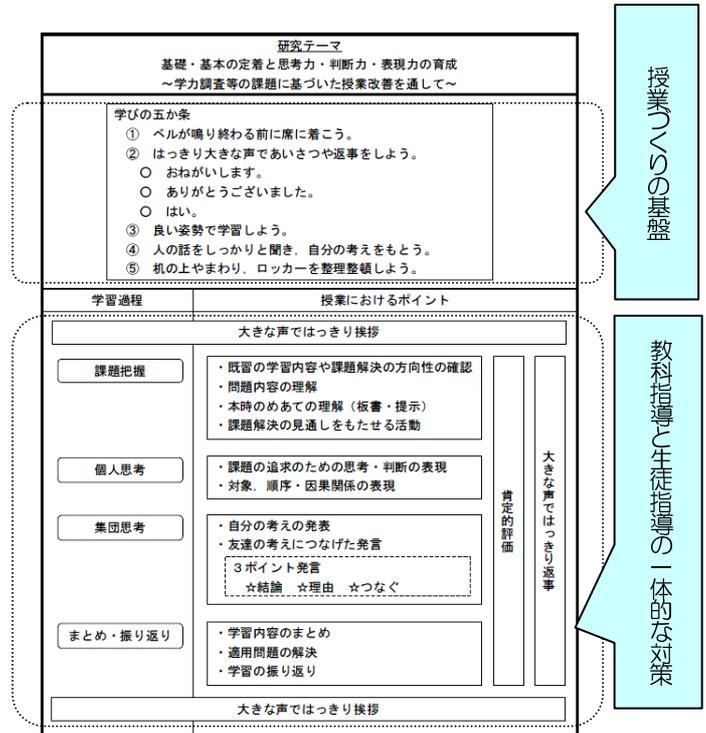
### 授業づくりでつながる

誰もが取り組めるようにするために

右の資料は、中学校区内の小・中学校のすべての教科において、日々の授業で共通して取り組むことを想定した授業のモデルです。

教科指導と生徒指導の一体的な対策を授業の中で行い、「学びの五か条」を小・中学校共通の授業づくりの基盤として位置付けています。

これなら、どの教科のどの授業でも取り組みそうですね。



### 教科でつながる

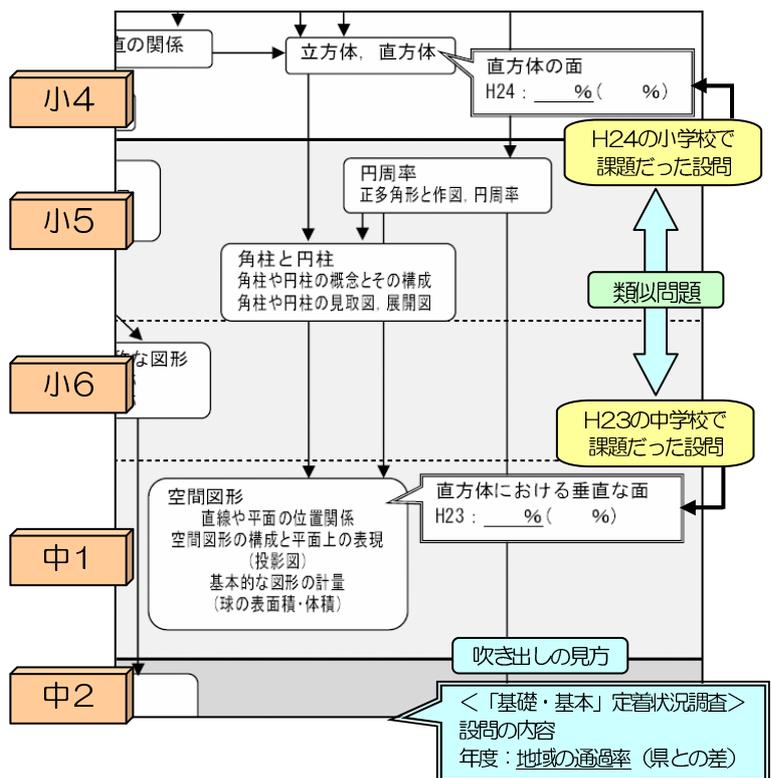
教科におけるつまづきを明確にするために

右の資料は、この地域の課題である「図形」領域の小・中学校9年間の学習の系統性がまとめられた図の一部で、ここでは、「直方体の面」について焦点をあてています。

学習の系統性がまとめられた図に、学力調査の課題を明記することで、どこで児童生徒がつまづいているか、つながりを確認することができ、各学年における授業に生かすことができます。



通過率30%未満の子どもたちのつまづきにも焦点をあてて、指導のつながりを見ることも大切ですね。



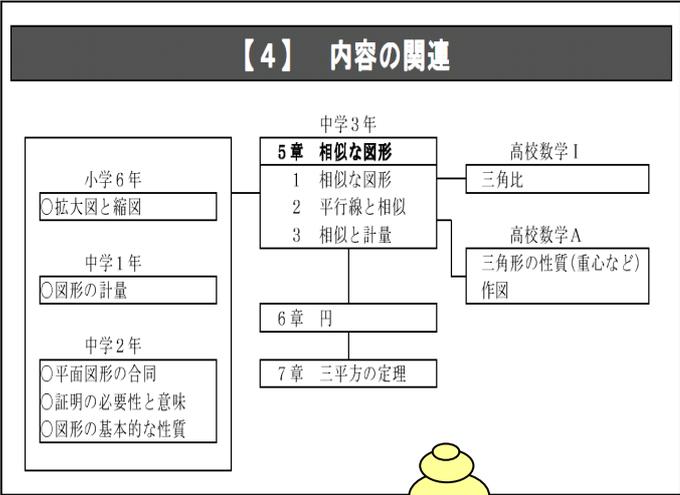
# 教材研究でつながる

## 授業における他学年、異校種との関わりを見るために

右の資料は、他学年や異校種との学習内容の関連を明記した学習指導案の一部です。

例えば、授業参観で児童生徒のつまずきを発見した際、それまでの授業で付けておかなければいけない力が付いていなかったのではないかと、学習内容の関連が分かれば自らの授業を振り返ることができます。

教材研究段階から小・中学校が連携したり、学年を超えて連携したりすることも授業改善につながります。



小・中学校が一緒になって教材研究をすると、実態に応じた指導方法の工夫・改善ができそうですね。また、「基礎・基本」定着状況調査と全国学力・学習状況調査をつなげた分析もありそうですね。



他学年や異校種の教科書の中に、指導のヒントがあるかもしれません。他学年や異校種の学習指導要領解説や教科書を見るなどして、教材研究を充実させましょう。

# 個に応じた指導でつながる

## 児童生徒の実態から具体的な手立てを考えるために

右の資料は、生徒の実態を学力調査等の誤答分析から把握し、課題を明確にすることによって、生徒のつまずきを個別に予想し、その手立てを明記した学習指導案の一部です。

ここでは、実態の違う生徒に対し、個別の手立てが考えられています。

このように、クラスの児童生徒一人一人に目を向けて、すべての児童生徒が、評価規準を達成できるよう指導計画を立案することは大切なことといえます。

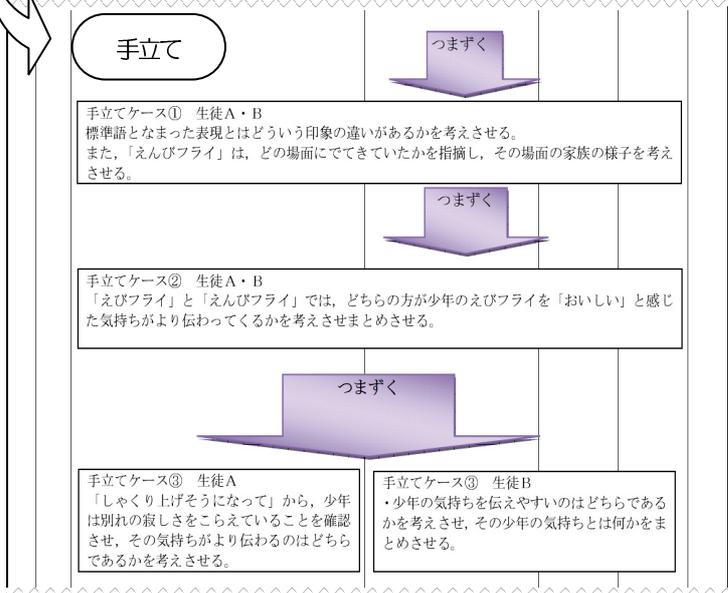
その際、小・中学校が連携して、手立てを考えることも大切であるといえます。

【「基礎・基本」定着状況調査 五一記述2（適切な理由）で誤答であった生徒から】

生徒	実態	課題
生徒A	○「基礎・基本」定着状況調査 五一記述2（適切な理由）解答類型6 記述1（理由の述べ方）誤答構成（論の展開・意見と理由）誤答 ○レディネステスト④が誤答。	○言葉に注意して読み取る習慣が定着していない。語彙力が乏しく、文章内容理解が難しい。
生徒B	○「基礎・基本」定着状況調査 五一記述2（適切な理由）解答類型6 記述の量 誤答 ○レディネステスト③が誤答。	○文脈に沿って内容を読み取ったり、表現や言葉に注意して内容理解したりすることができない。文章にしたり、考えたりすることを億劫がり、集中力が欠けている。そのことも、読解力の伸び悩みに反映している。



子ども一人一人の課題に応じた指導計画を立てることは、クラスの一人一人の存在を大切にしている指導につながりますね。



# ノートづくりでつながる

取組内容を見える形で示すために

右の資料は、児童生徒の参考となるノートを掲示し、全校で紹介したものです。

上の写真は小学校の掲示物で、中学校区内3校（中学校1校、小学校2校）の全学年のノート見本が掲示され、小・中学校のつながりを意識した取組がなされています。

下の写真は中学校の掲示物で、ノートの見本にノートづくりのポイントを吹き出しで示す工夫がされています。ノート指導を通して学校全体で学力向上に取り組んでいます。

この連携地域では、中学校区3校の各学年のノートを掲示しています。



相互にすばらしいノートを肯定的に評価し合うことで、共感的人間関係を育成することができますね。掲示された子どもたちは自己存在感が高まります。

この連携地域では、吹き出しを使って、ノートへのポイントを示しています。



# 便りでつながる

取組内容を共有するために

右の資料は、研究授業や研究協議会が実施された後、その様子や研究の推進状況を中学校区のすべての教職員で共有するために研究推進便りとして発行されたものです。

研究協議会で明らかになった課題や今後の取組を共有するため、研究推進便りは有効な手段の一つといえます。

取組内容をみんなが共有して、みんなで課題を解決していくことが大切ですね。



学力向上総合対策事業 **牽け橋 KUMANO No.6** 平成24年10月2日

●研究テーマ **基礎・基本の定着・活用を促す授業設計 ～「表現力」の育成～**

●言語の基礎 刺を回れているのかを正しく読み取り、理解できるようにし、読われていることについて的確に書くことを指導する。

●第5回授業研究が行われました！

9月26日(月)に、○○○教諭が2年〇級で言語の授業を行いました。平成24年度「基礎・基本」定着状況調査(国語)の8の問題：文脈に合う適切な語句を空欄の前ではめる問題【私が健康になったのは、(ア)と(エ)に、イ基のかに、(ウ)も(カ)に、(エ)も(カ)に、(オ)の(カ)に】の課題(通読率 41.1% 47.1%)から授業を行いました。今回は20名の参加となりました。どの生徒もが参加できる授業でした。程ごとに「うれしい/喜ばしい/楽しい/なつかしい/くやしい/うらめしい/もどかしい/むねたしい/寂しい/おびしい」の言葉の共通点や相違点を考えました。辞書を引ながら、一生懸命に考えている生徒の姿が印象的でした。

単元名：豊かな言葉 言葉を選ぼう もっと良くなる表現を目指して 本時のねらい：言葉の共通点や相違点について考えをまとめることができる。

●協議会まとめ

	よい点	改善点等
1. 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査で課題となっている「言語」の部分を生徒に意識させる内容となっていた。</li> <li>相違点を考えるポイントを用意していたのがよかった。</li> <li>後半子どもが困っている時に相違点を考えるポイントを提示されたので、板での話が活発になった。</li> <li>ワークシートの活用が効果的で、学習の意図や考えが分かりやすかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「かまえて」の指示で全員で音読</li> </ul>
2. 経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の内容(めあて)を機能的にわかりやすく書かれている。(時間経過にもなっていた)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つのカードの色を変えてもよかったのではないか?</li> </ul>
3. 結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のテンションが低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スビーカードがあるため、子どもたちを交</li> </ul>

この連携地域では、学力向上のマスコットが活躍しています。このマスコットは、生徒がデザインしたもので、中学校区の子供生徒のモチベーションを高めています。

- <資料提供>
- ・ 横路中学校区小中連携地域
  - ・ 宮原中学校区小中連携地域
  - ・ 熊野中学校区小中連携地域
  - ・ 豊松中学校区小中連携地域
  - ・ 総領中学校区小中連携地域
  - ・ 福山市中中連携地域